

「わがまち紹介」 活動の感想

11月の「わがまち紹介」は、長岡京市に行ってきました。

長岡京市、1200年前奈良の平城京から京都に都が遷るまでの一時期中心のな都がおかれた地です。その規模は平安京に匹敵するものであったようです。川を利用しての交通の便を考えての都であったのではとされています。

阪急西山天王山駅から旧西国街道をJR長岡京(旧神足駅)までの散策でした。途中で古民家の中野邸(国の有形文化財)に立ち寄り、少し中を拝見しました。現在、中野邸はZOOの障害者団体がデイナーやカフェを運営しておられます。

そこから15分ほどのところにある神足石仏群に立ち寄りました。

神足と古市共同墓地の中にあり、穏やかな表情のお地藏様と死者を裁く閻魔と五王の石仏が入り口にあり、さらに奥に、阿弥陀如来と釈迦如来像があります。

ここは江戸時代末期に死後の恐怖から庶民信仰として造られたようです。ここから少し戻り本日の昼食は、古民家の「旧石田邸」でいただきました。ここは今「長岡京市立神足ふれあい町家」として、ZOOの方々が運営されておられました。

庭に面したお座敷に椅子席を準備していただき、ゆったりとランチを頂きました。



庭園の見えるお座敷で昼食会

皆様、帰りには長岡京名産の筍最中(館の中に密漬け筍)や障害者の方々の手作りの品物を買っておられました。JR長岡京駅で解散し帰路につきました。

今回は、古民家のあり方や保存の大切さ、大変さもかねての散策になりました。

高槻市や茨木市にも古民家がありますが、利用されているのはごく一部で、保存が危ぶまれておられます。個人や市独自では難しい面がありますが、使われない古民家は益々、荒れていきます。でもリホームやリノベーションをして新たな住まい、新たな店舗としても利用価値が上がるのにも思いました。古民家とまちづくりは新しいロマンを築ける空間で様々なパワーを借りて、是非とも残していきたいと思いつつ、

「わがまち紹介」でした。

記：奥田美智子



11月16日、この日も天候に恵まれ、事前に頂いた資料を手にしながら、

西国街道史跡巡りを楽しみました。

資料と共に史跡の箇所を巡り、江戸時代から栄え古い歴史を守られ、ゆったりとした静かな町を感じました。

長岡京は、10年間だけの都だった事も初めて知った次第です。

その当時の戦いや色々な出来事、悲運の重なり等での歴史の移り変わりを感じました。

「与市兵衛の墓」と伝えられていた供養塔では、「仮名手本忠臣蔵」の舞台の一部分の場所だった事など興味が湧き、後日図書館で借りて読む事でした。

文楽 歌舞伎のお芝居本ですが改めて面白く読めました。

今ではすっかり閑静な住宅街になっていますが、山賊に襲われるほどの奥深い山街道だった事でしょう。

「中野家住宅」「旧石田家住宅」共々立派な大屋根で、町家独特の風情を持つ住宅でした。

街道沿いにはこの様な家々が多く活気があったのだろうと想像しました。

「旧石田家住宅」でお座敷から見える庭の季節のお花を見ながら、お蕎麦とおぼんざい定食を美味しく頂きました。

後のコーヒー、デザートでほっこりと和みました。

お陰様で、色々な場所を見学出来て今更ながら、少しでも詳しく歴史を知ることが出来て感謝です。

記：榎並多津子



特に私は奈良、平安朝の歴史書や、歴史小説が大好きなので、用意して頂いた観光マップを眺めながら、いつの日かこの史跡をくまなく巡りたいと思いました。

昔の面影の残る西国街道の貴重な国の有形文化財で有る中野家住宅のどつしり構えた玄関の辺りを見学させて頂きました。

続いて旧石田家住宅において、心のこもったお手間入りのご馳走をいただきますながら、ふと奥の部屋の天井に目をやると、黒光りする太くてびっくりする様な立派な通し梁がどん、と横に張られていて、存在感のある梁が脳裏に残り、さすが旧家だなあと感無量でした。

「ああ」西国街道懐かしい響きの街道名です。私が娘時代を過ごした西宮の実家では、西国街道は、日常生活に欠かせない道で、思い出の沢山あるあの道が、京都の東寺口まで繋がっていると知らず、今回初めて教えて頂き感激致しました。ありがとうございます。

記：田中 容子